

2018年
10月
No.210

県病ニュース秋号

【理念】 奉仕・信頼・進歩

『県立病院からのお知らせ』

院長 うえしげお
井上 敏郎

大分県立病院への常日頃からのご理解・ご支援そして当院を治療していただき感謝申し上げます。

『県病ニュース特別号第210号』を発行するにあたって次の3点についてお知らせ申し上げます。

まず、大規模改修工事のことです。ご存じのように2015年度から6年かけて主に上下水・空調の配管の交換を実施しています。いわゆる居ながら工事のため、利用空間の制限、工事の騒音などいろいろとご迷惑をおかけしていますが、関係者の方々のご理

解・ご協力のもと、約半分の

工程が終了し、今後残り半

分、東側の各階病棟、1・2

階の各診療科外来、検査部

門、放射線科部門等の工事、

エレベーターの取り換え工事

等を予定しています。2年後

の2020年度中には現在の

化学療法室、リハビリ室を増

築棟に移転し、各診療科外来

の一部も、より利用しやすい

形へ変えて行く予定です。詳

細は逐次お知らせして参りま

す。

2つ目は診療の流れをより

スムーズにするために、一部

の診療科に入院が決まった方

は、その後できる限り早い時

期に入院前・中・後に予定さ

れる一連の治療等に関する内

容と流れを説明していくこと

としました。今後、対象診療

科を少しずつ拡げていきたい

と思っています。また、初め

て外来を受診された方の方

ち、既に診療情報をお持ちの

方に対して、より細やかな診

療とするため外来看護師が話

を聞かせていただく取組を始

めました。患者さんのご意見

を伺いながら進めて行きたい

と思っています。

最後に自動精算機の導入、

駐車場の混雑時の緩和策につ

いても実現に向けて検討に

入っております。今しばらく

お待ちくださいますようお願い

申し上げます。

まだまだ改善すべき点が多

々あると思いますが、少し

ずつ改善していけるよう努め

て参りたいと思っております

のでご支援を宜しくお願いします。



血液内科部長のご挨拶



血液内科
部長
い
ち
い
英

いち
一

おお
大

当科では白血病や悪性リンパ腫などの血液がんを主体に、各種貧血や血小板減少などの血液の病気を全般を診療しています。

がん細胞を選択的に攻撃する「分子標的薬」が次々に登場しており、血液がんの治療は目覚ましい進歩を遂げています。強力な抗がん剤治療や造血幹細胞移植も行っています。新薬を組み入れた治療によって治療成績の向上を目指すとともに、それぞれの患者さんにとって最適な治療を実践することを心掛けています。また、外来での化学療法も積極的に行っています。

り、実施件数は年間1000件を超えています。

私は大分県出身で大分医科大学を第一期生として卒業したこともあり、血液の病気を患った大分の患者さんに東京と同等の医療を提供したいという思いで診療に携わってきました。

血液の病気はいろいろな合併症を伴うことが多く、各診療科の協力が必要になります。幸いにも大分県立病院には各診療科が揃っています。

各科の医師や各部門のメディカルスタッフの方々にサポートしていただきながら、前任の佐分利先生とともに作り上げてきたものを継承して、宮崎輸血部長や新進気鋭の若手血液内科医とともに、大分の患者さんに最適な治療を提供するように日々努めていく所存です。

呼吸器外科部長のご挨拶



呼吸器外科
部長
は
ら
涼
太
郎

かも
蒲

平成30年4月1日より呼吸器外科部門の診療部長として赴任した蒲原涼太郎（かもはら りょうたろう）と申します。胸部領域の腫瘍性疾患（肺がん、縦隔腫瘍など）や良性疾患（気胸など）に対する外科治療を中心に扱っております。

症例数として多いのは肺がんです。肺がんに対する治療は、手術・抗がん剤・放射線の3つが柱となります。私たちは、手術を専門としますが、治療法の選択については、抗がん剤治療の専門である内科ドクターや、放射線治療の専門である放射線科ドクターと十分に協議した

上で、患者さんにとってよりよい治療を模索し、ご提案致します。

手術に関しましては、「診療ガイドライン」に沿った「標準治療」を大前提とし、患者さんの状況や、病気の進み具合などを十分考慮した上で、バランスの良い治療を心掛けています。「胸腔鏡」というカメラを用いて小さい傷で行う手術や、切除する肺の容量を小さくして肺機能の温存を図る「縮小手術」を取り入れる一方で、手術が適切と考えられる「進行がん」に対しては、切除範囲を拡大して完全切除を目指します。

外来の診察では、初めて聞くことも多く、わからないことだらけだと思います。気になることがあればなんでもご質問下さい。どうぞ宜しくお願い致します。



形成外科部長のご挨拶



形成外科部長
原 せい 聖

し 司

ほう 芳

はじめまして、4月より形成外科に赴任いたしました芳原聖司と申します。生まれは山口県ですが、ご縁がありまして数年前から大分県で生活しております。

形成外科と聞くと何をされている診療科なのだろうか？どのような疾患を扱っている診療科なのだろうか？とよく尋ねられます。

形成外科とは体の傷や変形を「きれいに治す」ことを目的とした外科系の診療科です。具体的には形成外科で取り扱う主な疾患として、やけどや擦り傷、切り傷などによって皮膚に異常が生じた場合の治療が挙げら

れます。他にも顔面骨折による歪みやひきつり、皮膚腫瘍の治療、あるいは腫瘍手術後の損なわれた組織・機能の再建、手足のけが、体の表面にある先天的な異常の治療なども形成外科が取り扱う疾患であり、守備範囲は広く多岐にわたります。

傷や変形を治すにあたっては、もちろん100%正常な状態に修復・再現できるわけではありません。しかし形成外科の治療を受けられる全ての患者さんに満足をしていただけるように、知識と技術を駆使して治療を行う所存でございます。

小さなことでもお悩みの事がありましたらお気軽にご相談ください。



事務局長のご挨拶



兼 院長 次長
事務局 長
瀬 せ 高 たか 博 ひろ

ひろ 廣

本年4月に本県の医療体制を推進する県医療政策課から病院局次長兼事務局長として着任しました。どうぞよろしく申し上げます。

さて、本院は、小児医療や周産期医療、がん医療、救命救急医療、災害医療など医療機能を整え、高度専門、政策医療を担う県民医療の基幹病院です。

そこでは、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、栄養士、理学・作業療法士、臨床工学技士など900人を超えるスタッフが昼夜を問わず働いています。

良質な医療を効率的に提供できる

県立病院であり続けるためには、県民のみならず信頼されるよう、これらの職員が十分に能力を発揮できる環境づくりに努めることが大切だと考えています。

そのため病院事務局は、病院の経営や組織、職員の給与などを取り扱う「総務経営課」、病院施設の維持管理や医療機器などの整備を取り扱う「会計管理課」、医療費計算や医療相談、地域の医療機関との連携などを取り扱う「医事・相談課」の3つの課の職員が、さらなる医療サービスの向上を目指し、より円滑に病院が運営されるよう各部門と日々連携しながら取り組んでまいります。

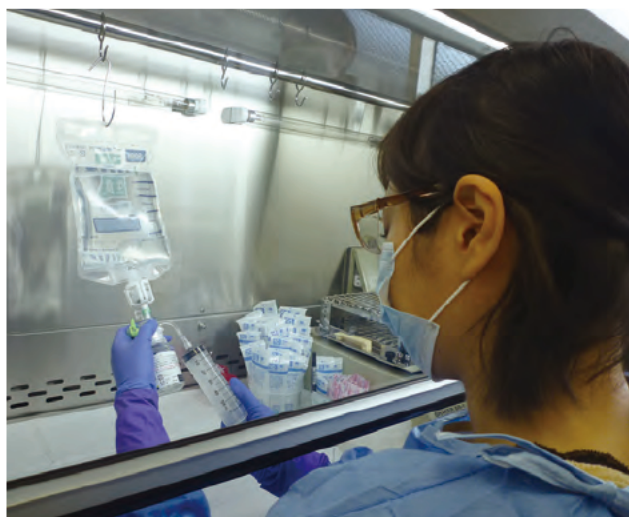


抗がん剤の無菌調製について

抗がん剤には、飲み薬と注射や点滴で投与する薬があります。中でも、点滴で投与する抗がん剤は、菌が入らない環境と手技で、生理食塩水などの輸液に混ぜる「無菌調製」が必要です。



当院1階にある薬剤部の中には抗がん剤を調製する部屋があり、入院・外来、すべての患者さんの抗がん剤を無菌調製しています。



抗がん剤の種類によっては、一定の休薬期間が必要な薬があります。また、抗がん剤の投与で過去に副作用が出たことがある場合、投与量が変わることがあります。そのため調製前には必ず、過去の投与記録を確認し、投薬スケジュールや投与量に問題がないかを確認しています。



(薬剤部 薬剤師 田中幸代)

新生児聴覚検査について

新生児の1000人に1～2人は聴覚障がいがあるといわれています。早期に発見され、適切な支援が行われると、音声言語発達等への影響が最小限に抑えられます。

県立病院では、新生児の聴覚スクリーニング検査として、2種類の検査を行っています。

【自動ABR検査(自動聴性脳幹反応)】

音を赤ちゃんに聞かせて、脳からの電氣的反応を調べます。NICU入院中の赤ちゃんはすべて対象です。

【OAE検査(耳音響放射)】

耳から音を入れると、内耳から反射音が出るという現象を利用して調べます。

産科にいる赤ちゃんで、検査を希望された方が対象です。



どちらの検査も痛みはなく、寝ている間に検査を行います。所要時間は数分～数十分です。大分県では平成30年4月から公費助成が開始され、県立病院では自費の負担がなくなりました。受診されている産科で確認されてください。聴覚障がいの早期発見のため、ぜひ検査をお願いします。

(臨床検査技術部 宇都宮孝美)

看護部だより



産科からのお知らせ

～ 母乳・育児看護外来のご案内 ～

大分県立病院では赤ちゃんの健やかな成長を願い、育児をがんばっているお母さんを退院後も応援しています。

当院で出産された方を対象に母乳・育児看護外来を設けており、おっぱいのケアをしながらゆっくりお話をお聞きし、必要なケアや生活に合わせたアドバイスを行っています。

退院後こんな悩みがあるお母さん、まずはご相談ください。

- ・乳房や乳頭の痛み、しこり、張りがとれないなどトラブルがある
- ・赤ちゃんの体重増加が気になる
- ・赤ちゃんとのタイミングが合わず、授乳がうまくいかない
- ・分泌が少ない、または多すぎると感じる
- ・赤ちゃんが新生児科に入院中のため搾乳中で、母乳分泌量を維持したい
- ・育児に自信がない



【お問い合わせ先】母乳・育児看護外来は**予約制**となっていますので、受診の際は下記にご連絡ください。

平日(月～金曜)8:15～17:00 → 産科外来 097-546-7265

土・日・祝日、上記以外の時間 → 産科病棟 097-546-7247

急な発熱や痛みなどの乳腺炎の症状に悩むお母さんのために、乳腺炎のケアも行っています。

☆医師の診察後、助産師がおっぱいのケアをします。

☆24時間対応ですが、夜間などの時間外ではすぐ対応できないこともあります。ご了承ください。

☆他院で出産された方も受け付けております。

(産科病棟副看護師長 川野理恵)

放射線技術部だより

X線撮影装置一式を更新します。

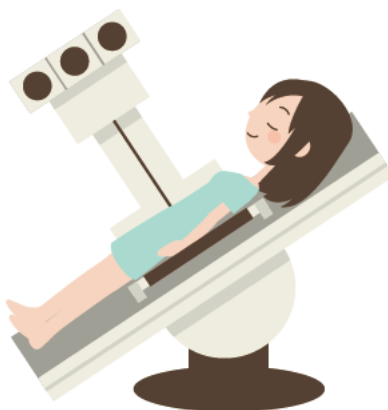
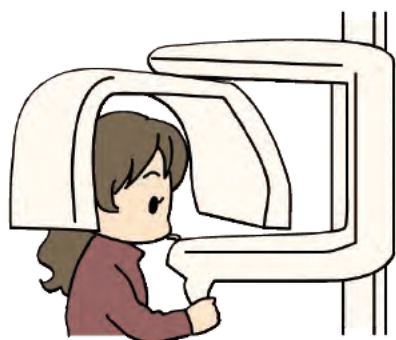
今年度、X線撮影装置一式を更新します。

更新対象は、「一般撮影装置」「X線TV装置」「骨密度測定装置」「歯科用撮影装置」です。

『患者さんの被ばく低減』を目指した最新型の装置です。従来よりも高画質の画像を少ないX線で提供できるうえに、検査時間の短縮が可能となり、患者さんへの負担軽減が期待できます。

なお、更新による工事期間が数か月に及ぶため、待ち時間や騒音等で患者さんには、しばらくご迷惑をおかけすることとなりますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

詳細は、次回の県病ニュースで改めてご紹介します。



「食欲がない時のひと工夫」シリーズ<その1>

～ さっぱり・ひんやりで食欲回復 ～

体調が良くない時や治療の後など、どうしても食欲が出ないときはありますよね。食欲不振の原因は様々ですが、その原因別に対処法を考えてみると、意外と食べられるものが見つかります。今回は、吐き気があるときのひと工夫を紹介します。

吐き気があるとき = さっぱりしたものを

匂いや味の強いもの、温かいもの、油っぽいものは吐き気を誘いやすいので避けましょう。吐き気があるときは無理に食べず、経口補水液などで水分とミネラルを少しずつ補給し、治まってきたら冷たくさっぱりしたものを試してみてください。生姜や梅干し、レモンは吐き気を抑える効果が期待できます。



《おすすめメニュー》

寿司飯、冷たいそうめん、パン、
冷たいお粥（梅肉入り）、酢の物、
卵豆腐、ところてん、冷凍みかん
…など



吐き気はずっと続くわけではないので、食事以外のことで紛らせて落ち着くのを待つのもひとつの方法です。
(栄養管理部 管理栄養士 吉澤香織)

教育研修センターのご紹介

教育研修センターは県立病院全体の教育や研修を担当する部署です。

院内各部門より選出された構成員により、月に1回運営会議を行っています。4月には職種にかかわらず新職員全員を対象にオリエンテーションを行います。また、院内職員向け・県内の医療従事者向け・さらに市民向けの研修会開催を開催しています。県立病院各部門の研修体系を構築することが今後の大きな目標です。



医師の卒前卒後臨床研修に関することがもう1つの大きな役割です。医師臨床研修は大きく変わり、初期臨床研修は必修となり、新専門医制度もはじまりました。教育研修センターは医学生のための病院見学の窓口となり、さらに院外で行われる病院説明会に参加しています。

初期研修医は全員教育研修センターの所属として研修がスムーズに行われるように調整しています。研修医に対する院内の勉強会や院外研修も行っています。

また定期的に研修医と面談を行い、研修内容や研修環境の改善に取り組んでいます。

(教育研修センター所長 加藤有史)



医療ネットワーク

「デジタルサイネージで登録医をご紹介しています」

大分県立病院では、平成29年3月から電子掲示板(デジタルサイネージ)を利用して、登録医の先生方が所属する医療機関のご案内をしています。

【登録医とは】

大分県立病院は平成21年に地域医療支援病院(以下、支援病院)として承認されました。支援病院は地域の医療機関との連携推進を目的に設けられ、支援病院の制度に協力いただいている地域の診療所の先生方を登録医と呼んでいます(大分県立病院では大分市内の診療所のみが対象です)。

現在の大分県立病院のデジタルサイネージには、ご協力をいただいた約100医療機関、登録医の先生方の情報を、朝7時から夕方17時30分まで地域別に放映しています。

診療所の特徴や写真が医療機関ごとに掲載されていますので、ご自分のかかりつけや専門医の情報としてご利用ください。



デジタルサイネージは、正面玄関をいって右側と防災センター側入口から入って正面に設定しています。

【大分県立病院と登録医との連携】

日常的な診察は地域のかかりつけ医(登録医)が行い、急性期の治療が必要な患者さんは、大分県立病院で治療をし、治療後の診療はかかりつけ医にお願いする、患者さんにとって地域で安心して生活できる医療のシステムです。(地域包括医療ともいわれています。)



【地域の先生方へ】

大分県立病院は新規の登録医を常時募集しています。大分市内の医療機関に所属されている先生方でご関心がありましたら、地域医療連携班まで遠慮なくご連絡ください。説明に伺います。

また、デジタルサイネージについてのお問い合わせも歓迎しています。



外来診療一覽表

注) 診療日が変更になる場合もありますので、予めご了承ください。
(平成30年10月1日現在)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
循環器内科		○	○	紹介のみ	○	○
内分泌・代謝内科		○	○	○	○	○
消化器内科		○	○	○	○	○
腎臓内科		休診	○	休診	○	休診
膠原病・リウマチ内科		○	休診	○	○	○
呼吸器内科	新患 再来	○	急患のみ ○	○	○	○
呼吸器腫瘍内科		○	休診	○	休診	○
血液内科		○	○	○	○	○
神経内科		○	○	○	○	○
外科	消化器 乳腺	○	○	○	○	○
脳神経外科		手術日 休診	○	○	○	手術日 休診
呼吸器外科		手術日 休診	○	手術日 休診	○	○
心臓血管外科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
整形外科		○	○	手術日 休診	○	○
形成外科		○	○	○	○	○
眼科		○	手術日 予約のみ	○	手術日 予約のみ	○

診療科	曜日	月	火	水	木	金
耳鼻咽喉科		○	○	手術日 休診	○	手術日 休診
婦人科	新患 ※紹介患者さん優先とさせていただきます。 再来	○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
産科		○	○	○	○	○
小児科		○	○	○	○	○
新生児科		○	○	○	○	○
小児外科		○	○	○	手術日 休診	○
内視鏡科	消化管 気管支	○ 休診	○	○ 休診	○	○ 休診
皮膚科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
泌尿器科	新患 再来	○	○ 手術日 休診	○	○ 手術日 休診	○
精神神経科		○ 予約制	○ 予約制	○ 予約制	○ 予約制	○ 予約制
緩和ケア外来		○ 15時から	休診	休診	休診	休診
放射線科		○	○	○	○ 午前中 休診	○
歯科口腔外科		○	○ 予約のみ	○	○ 予約のみ	○
外来化学療法室		○	○	○	○	○
診療科の判断が 困難な場合の 担当診療科		消化器 内科	1・3・5週 内分泌・ 代謝内科	呼吸器 内科	神経 内科	血液 内科
		2・4週 腎臓 内科				

アクセス

オアシスひろば ● トキハ前2番のりば
● 県庁
● 大分駅前4番のりば
● 大分駅
● 豊府小
● 豊府中
● 豊府高
● 府内大橋
● 光吉IC
● 至竹田・佐伯

JR: 大分駅からタクシーで約15分または
南大分駅からタクシーで約8分
バス: 大分駅前・トキハ前バス停からバス・徒歩を含めて約25分
(大分市内中心部から約25分間隔で運行)
駐車場: 有料駐車場(約400台)完備(1時間まで無料)

受付時間 午前8時～午前11時

救急患者は24時間受入

紹介による受診に関する事は…

地域医療連携班

平日(土・日・祝日除く)
午前8時15分～午後5時(受付は11時まで)
TEL 097-546-7129
FAX 097-546-7368

診療開始時間 午前8時30分

休診日 土・日・祝日・年末年始
(12月29日～1月3日)

療養中の心配事や不安などは…

患者相談支援班

平日(土・日・祝日除く)
午前8時30分～午後5時
TEL 097-546-7125

Oita Prefectural Hospital
大分県立病院
ぶにょう

〒870-8511 大分市大字豊鏡476番地
TEL 097-546-7111～2(代表) FAX 097-546-0725 総務経営課広報係 2710(内線)
E-mail a80200@pref.oita.lg.jp ホームページ <https://www.oitapref-hosp.jp/>

※当ニュースへのご意見・ご感想は1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。